

書評

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-05-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 北村, 晃寿 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025169

書評

リチャード・レイメント著／阿部勝巳訳：地球科学の巨人たち 科学者たちの素顔に迫る 東海大学出版会 2800 円＋税 ISBN 4-486-01441-3

1992 年、阿部さんは初めての著書「ワイングラスかたむけ顕微鏡」を出された。それ以来、「海蛍の光」, 「太古の海の記憶 (池谷仙之静岡大学教授, 日本古生物学会会長と共著)」の 2 冊の著書, 「地球を動かしてきた生命」と「失われた化石記録」の 2 冊の訳書を出版された。そしてここで紹介する「地球科学の巨人たち」は 3 冊目の訳書である。これらの本は, 研究者はもとより一般の人にも, 地球科学の内容を分かりやすくかつ魅惑的に伝えている。それに阿部さんの書かれる文体は実に美しい。こうした豊かな才能をもち, 精力的に啓蒙活動を実践されている阿部さんに, 私は福音館から出版した絵本「暖かい地球と寒い地球」の書評をお願いした。書評は, 日本古生物学会「化石」7 月号に掲載され, その中で阿部さんは次の言葉を残している。「『絵本なんて書いて……』などというつまらない批判はやめよう。科学者が自分の研究成果を文字にして公にする手段に, 原著論文, 総説, 科学読み物, 絵本などがあるとすると, その発表形態の選択には, メッセージの伝達の対象と, 伝達内容ごとに異なってよいはずの表現形式との検討があり, その結果として最良の方法が採られているはずだからである。」この言葉に阿部さんの啓蒙活動に関する哲学が現れている。そして阿部さんは文字だけではなく, 行動でも研究成果を公にする人であった。昨年夏には「夏の夜の海蛍と房総」というテーマで県地学会の夏期巡検会を開催した。この時には, 館山にあるご自身の山荘を参加者のために開放されている。

阿部さんから, 最新の訳書「地球科学の巨人たち」の書評を頼まれた。書評を書いてもらった義理もあるので, 喜んで引き受けた。本は 7 月上旬に届いた。その時, 阿部さんは「誤植があるんだよ」とにが笑いをしていた。同月中旬, 私は海洋調査船に乗船し, そこでの作業の合間に本を読んだ。「地球科学の巨人たち」は地質学の黎明期に生きた 17 人の巨人たちの物語である。20 日間の航海だったので, 1 日 1 人読んでいくことにした。世界初の地質図を作成し, 社会に多大に貢献したにも関わらず, 経済的には恵まれなかったウィリアム・スミスの話は, 彼を初めとする黎明期の巨人たちの血のにじむような努力のおかげで, 今日の我々地球科学者のステータスがあることを痛切に感じた。また, 日本になじみの深いナウマンの後半の人生もこの本を通じて初めて知ることができた。こうした巨人たちの話だけでなく, 興味深いのは奇数ページの右半分を占めている注解である。文中の語義の注釈ばかりでなく, 阿部さんの一口メモや小話が書かれているのだ。それらは阿部さんの広く深い見識に触れることができるとともに, 阿部さん独特の世界観もかいまみれて実に楽しい。例えばラテン語に関しては次のような注解が与えられている。「ラテン語を学習するというのは, 現代日本の大学受験生なら, さしずめ古文の勉強に相当するのだろう。日常生活に直接役立つわけではないが, それを知っておくと日常使う言葉に深みを感じられたり, 昔の人々の思考パターンに触れることができたりして, 間違いなく精神世界が豊かになる」。この注解という表現形式は「太古の海の記憶」で導入した「手紙のやりとり」という表現形式に続く新手法であり, これを阿部さんは「一粒で 3 回美味しい本」と表現

している。正に前述の「伝達内容ごとに異なってよいはずの表現形式との検討があり、その結果として最良の方法が採られている」のだ。このように「地球科学の巨人たち」を読むことによって、私たちは地球科学の発達史の理解を深められるばかりでなく、阿部ワールドをも堪能できるのだ。ただ、気になったのは、阿部さんには珍しく文章のこなれていない箇所がいくつかあったことで、多少オーバーワーク気味な感じをもった。

8月上旬、大学に戻った私は感想とともにそれらの箇所を伝えようと阿部さんに会える日を待っていた。だが、その日は永久に来ないことになった。8月21日、阿部さんは前ぶれもなく突然逝かれたのだ。我々は驚き、言葉を失った。享年45歳、17人の巨人の誰よりも若かった。そして「地球科学の巨人たち」は阿部さんの最後の作品となってしまった。最後の作品「地球科学の巨人たち」は訳書である。しかし、そこにはまぎれもなく最新で最後の阿部ワールドが生き生きと展開している。だから皆さんに読んでいただきたいのである。そしてまた阿部さんの「ワイングラスかたむけ顕微鏡（国際書院、1800円、ISBN 4-906319-35-1）」、「海蛍の光（筑摩書院、1100円、ISBN 4-480-04178-8）」、「太古の海の記憶（東京大学出版会、3811円、ISBN 4-13-060166-0）」、「地球を動かしてきた生命（国際書院、2500円＋税、ISBN 4-906319-66-1）」、「失われた化石記録（講談社、840円、ISBN 4-06-149344-2）」も是非とも読んでいただきたい。そこには短い人生ではあるが、数々の大きな仕事を果たした現代の地球科学の巨人の足跡がある。（北村晁寿）